阪南市埋蔵文化財報告 53

阪南市埋蔵文化財発掘調査概要 32

２０１５年

阪南市教育委員会

はしがき

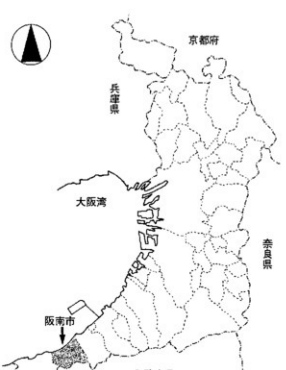
阪南市は北に大阪湾を隔てて淡路島を望み、南は和泉山脈を越えて和歌山県にいたる大阪府下でも自然豊かな立地に所在しています。

高度成長期に始まった開発の波による自然破壊と共に、多くの遺跡が消滅していく中で、本市教育委員会では昭和60年度より国庫補助を受けて発掘調査を続けてまいりました。その結果、これまでに貴重な資料を得ることができ、地道な作業の積み重ねで、地域に新しい歴史の発見がありました。

本書は平成26年度の国庫補助事業として実施した発掘調査概要報告書です。今後、多方面において、ご活用いただけるよう願っております。

最後になりましたが、発掘調査にあたり、ご協力いただきました土地所有者並びに関係者各位に対しまして、厚くお礼申し上げます。

平成27年3月31日
阪南市教育委員会



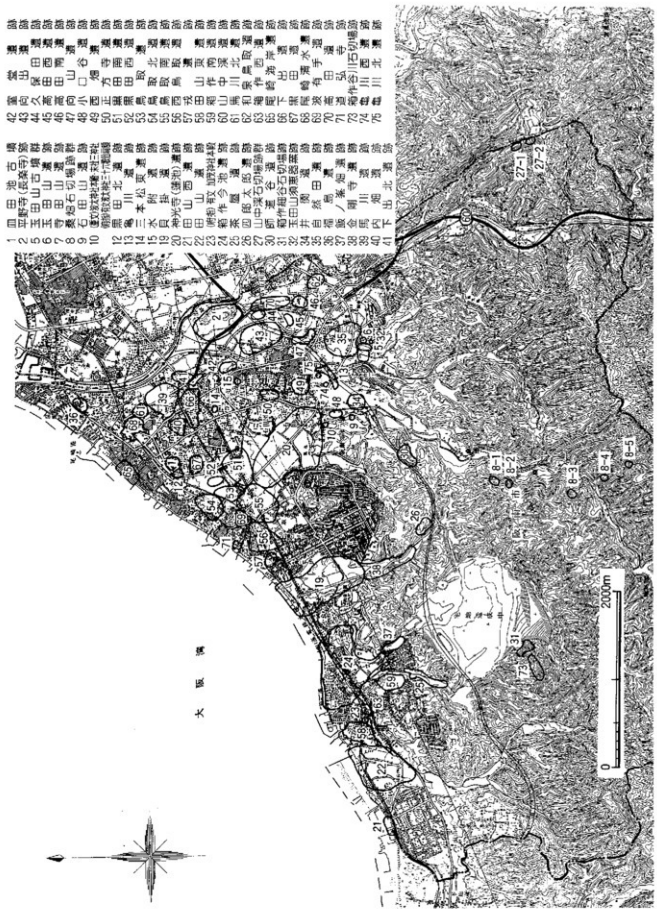
第1図 大阪府阪南市位置図

例　言

1．本書は、阪南市教育委員会が阪南市内において実施した、阪南市埋蔵文化財発掘調査概要報告書である。
2．調査は、平成26年度に国庫補助事業として計画実施した。
3．現地における調査は、阪南市教育委員会生涯学習部生涯学習推進室田中早苗、上野　仁、須崎雄一朗(嘱託)を担当とし、平成26年1月から12月にかけて行った。
4．本書内で示した標高はT.P.(東京湾平均海面)を基準としている。
5．発掘調査にあたっては土地所有者をはじめ、関係者各位の理解と協力を得た。ここに記して感謝の意を表したい。
6．土層の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修　小山正忠・竹原秀雄編著『新版標準土色帖』(2000年版)を使用した。
7．本書における記録は実測図、写真、カラースライド等で保存し、当委員会にて保管しているので、広く活用されたい。
8．本書の執筆、編集は上記の調査担当者が行った。
9．発掘調査および整理作業に以下の方々の参加を得た。
　南　竹千代、杉田正千代、古牧　敬、清田幸男、金沢隆男、和田旬世、
　井上祥子、井上　進、島田万帆

目　　次

第１節　馬川遺跡	（１）１４－１区	1
	（２）１４－２区	2
	（３）１４－３区	5
第２節　下出北遺跡	（１）１４－１区	6
第３節　波有手遺跡	（１）１４－１区	8
第４節　鳥取南遺跡	（１）１４－１区	9
第５節　西鳥取遺跡	（１）１４－１区	１１
第６節　神光寺(蓮池)遺跡	（１）１４－１区	１２
第７節　向出遺跡	（１）１４－１区	１５
第８節　貝掛遺跡	（１）１４－１区	１７
第９節　箱作今池遺跡	（１）１３－２区	１９
	（２）１３－３区	２０
	（３）１４－１区	
第10節　下出範囲外	（１）１３－１区	２２
第11節　新町範囲外	（１）１４－１区	２５
第12節　石田範囲外	（１）１４－１区	２６
報告書抄録		３０



第２図 阪南市埋蔵文化財分布図

第1節　馬川遺跡

馬川遺跡は阪南市の北東部を流れる男里川の左岸に位置し、砂洲である低地部と和泉山脈により派生した段丘上にまたがっている。昭和62(1987)年度に阪南町教育委員会(当時)が実施した埋蔵文化財分布調査でサヌカイト、土師器、須恵器等が採取されたことで、発見周知された。本遺跡の北側には縄文時代後期から弥生時代中期の流路を検出した馬川北遺跡があり、南側は中世期の墓地を検出した下出遺跡、西側は平安時代から近世期の遺構、遺物を検出した内畑遺跡に囲まれ、男里川の対岸には縄文時代以降の複合遺跡として知られる泉南市の男里遺跡が所在する。過去の調査において、低地部ではサヌカイト、弥生土器、土師器、須恵器等の弥生時代から奈良時代にかけての遺物が多く出土している。また、段丘上では多量の中世瓦が出土していることから付近に中世寺院の存在が想定される。その他に中世期の蛸壺焼成土坑、16世紀後半から19世紀前半の墓地等が検出されている。

(1) 14−1区 (第3～6図)

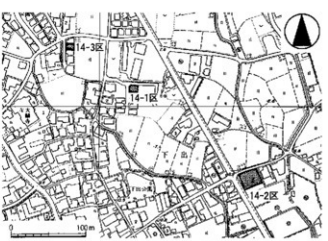
調査区は馬川遺跡の中央部に位置する。調査は、調査区内に2.8m×1.8mのトレンチを設定して行った。

基本層序は、第1層盛土、第2層耕作土、第3層褐色砂混粘質土10YR4/4、第4層マンガン混じりの黒褐色粘質土10YR3/2、第5層はマンガン混じりの黄褐色粘質土10YR5/6の地山である。地山は地表面より約−1.00mで検出した。

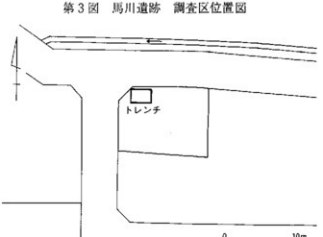
遺物は、第3層から土師器、須恵器、瓦器、土師質土器、製塩土器が、第4層から土師器、須恵器、焼土塊が出土した。第3層は中世期、第4層は古墳時代の包含層と考えられる。1は奈良時代の須恵器坏身で第3層から、2は古墳時代の須恵器坏身で第4層から出土した。

遺構は、地山面で土坑を2基検出した。

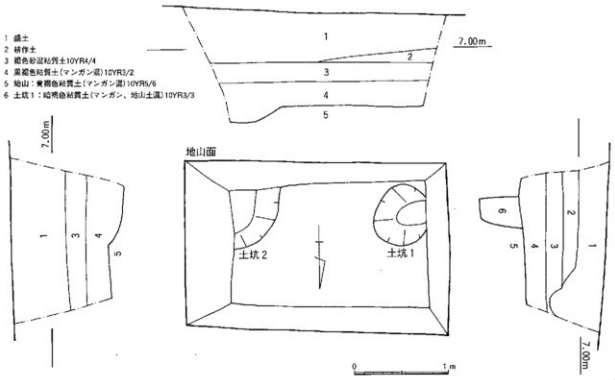
土坑1は直径0.65m、深さ0.46mで一部はトレンチ外へ延びる。埋土は



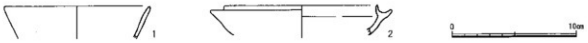
第3図　馬川遺跡　調査区位置図



第4図　馬川遺跡 14-1区　トレンチ位置図



第５図　馬川遺跡 14-1区　トレンチ平面・断面図



第６図　馬川遺跡 14-1区　出土遺物

マンガン混じりの暗褐色粘質土10YR3/3で地山の土が混じっていた。遺物は土師器、須恵器が出土した。古墳時代の遺構と考えられ、断面の形状から柱穴の可能性がある。

土坑２は東西0.55ｍ以上、南北0.65ｍ以上、深さ0.16ｍで大半はトレンチ外へ延びる。埋土は第４層と同じで古墳時代の遺構と考えられるが、遺物は出土しなかった。

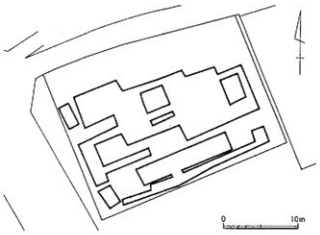
（２）14－2区（第３・７～９図）

調査区は馬川遺跡の南部で、男里川左岸の氾濫原に位置する。調査区のほぼ２分の１にあたる227.38㎡の調査を行った。

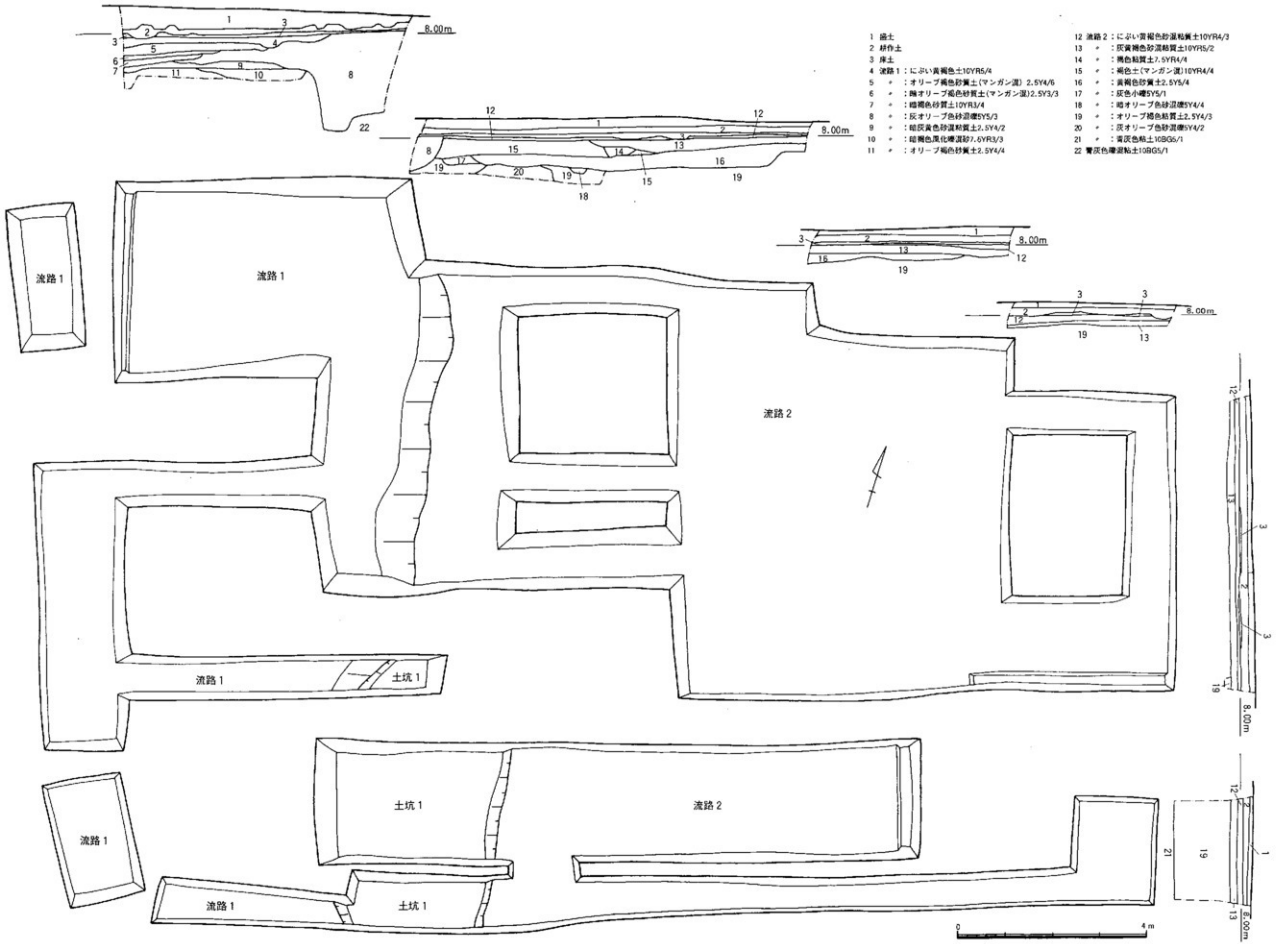
基本層序は、第１層盛土、第２層耕作土、第３層床土である。

調査区西部で土坑１、流路１を検出した。

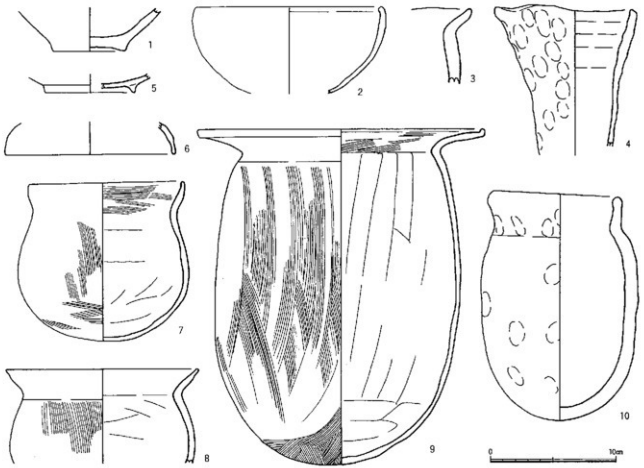
土坑１は東西4.00ｍ以上、南北6.00ｍ以上、深さ0.05ｍを測る。埋土は灰黄色土2.5Y6/2で、流路１を切っている。遺物は土師器、須恵器、瓦器、土師質土器



第７図　馬川遺跡 14-2区　トレンチ位置図



第8図　馬川遺跡 14-2区　トレンチ平面・断面図



第９図　馬川遺跡 14-2区　出土遺物

が出土した。中世期の土坑である。

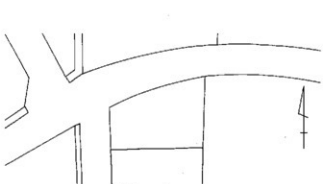
流路１は、長さ16.00ｍ以上、幅9.50ｍ以上、深さ2.10ｍである。埋土は砂質土、粘質土、礫等が堆積している。遺物は弥生土器、土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、土師質土器、中世瓦、製塩土器等が出土した。中世期の堆積と思われる。１は弥生土器の壺、２は土師器杯、３・４は奈良時代の製塩土器、５は黒色土器の椀である。

流路１より東も床土以下に砂質土、粘質土、礫等が複雑に堆積しており、地表面から約－1.90ｍ掘削したが、明確な地山の検出には至らなかった。調査区全体が流路であると考えられ、流路１に切られている。遺物は上層から土師器、須恵器、瓦器、土師質土器、土師質真蛸壺、製塩土器が出土した。中世期の流路と思われるが下層からは中世期と確定できる遺物が出土していない為、それ以前の堆積の可能性もある。６は須恵器杯蓋、７～９は土師器で７・８は壺、９は甕、10は土師質真蛸壺である。

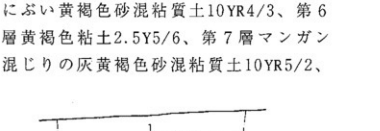
（３）14－3区（第３・10～12図）

調査区は馬川遺跡の北西部に位置する。調査は、調査区内に2.0m×1.4mのトレンチを設定し、実施した。

基本層序は第１層盛土、第２層耕作土、第３層床土、第４層にぶい黄橙色砂混粘質土10YR6/4、第５層マンガン混じりのにぶい黄褐色砂混粘質土10YR4/3、第６層黄褐色粘土2.5Y5/6、第７層マンガン混じりの灰黄褐色砂混粘質土10YR5/2、

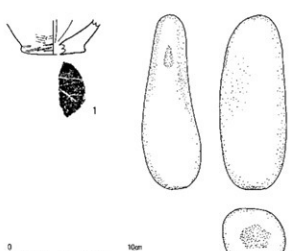


第10図　馬川遺跡 14-3区　トレンチ位置図



第11図　馬川遺跡 14-3区　トレンチ西側断面図

第８層にぶい黄橙色砂混粘土10YR6/3、第９層マンガン混じりの暗褐色粘質土10YR3/4、第10層マンガン混じりのにぶい黄褐色粘土10YR4/3、第11層オリーブ褐色砂質土2.5Y4/3で、地表面から工事によって影響のおよぶ約－1.65mまで掘削したが、地山の検出には至らなかった。周辺の既往調査も同様な堆積で地山は検出されず、トレンチ全体が流路である可能性が高い。



第12図　馬川遺跡 14-3区　出土遺物

遺物は第５層から瓦器、土師質土器、焼締陶器、土師質真蛸壺、土師質管状土錘、中世瓦、第７層から土師器、９層から弥生土器、土師器、第10層から敲石、土師器が出土した。第５層は周辺の調査で磁器が出土しているため、近世期、第７～10層は古墳時代と考えられる。１は弥生土器の壺で底部に葉脈痕が見られ、第９層から出土した。２は和泉砂岩製の敲石で２ヶ所に使用痕があり、第10層から出土した。遺構は検出されなかった。

第２節　下出北遺跡

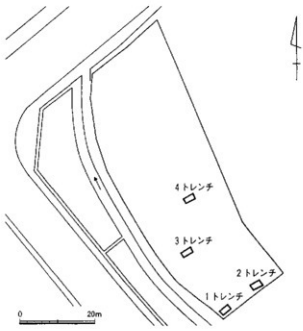
下出北遺跡は、阪南市の東端を流れる男里川の左岸に位置し、平成７(1995)年度に行った民間の開発工事に伴う試掘調査の95－１区で発見された遺跡である。その調査では、弥生時代の土坑や弥生土器、土師器、須恵器等の遺物を含む南北方向の流路等が検出されている。

（１）14－１区（第13～15図）

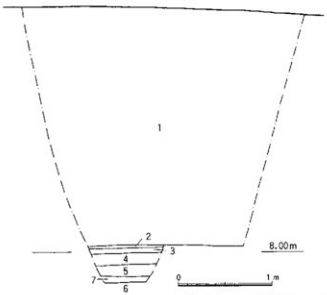
調査区は下出北遺跡の中央部で、東約300ｍを流れる男里川の氾濫原に位置する。

調査区の南部に１・２トレンチ、中央部に３・４トレンチを設定し、計17.70㎡の調査を行った。

第13図　下出北遺跡　調査区位置図



第14図　下出北遺跡 14-1区　トレンチ位置図



第15図　下出北遺跡 14-1区　２トレンチ南側断面図

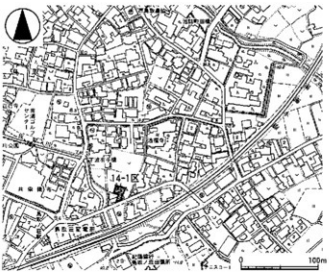
基本層序は第１層盛土、第２層耕作土、第３層褐色砂質土10YR4/6、第４層褐色砂質土10YR4/4、第５層にぶい黄褐色砂質土10YR5/4、第６層は地山であるが、１・２トレンチではにぶい黄褐色砂混礫10YR4/3、３・４トレンチでは灰色砂混礫7.5Y4/1である。地山は地表面から約－2.60～3.20ｍで検出した。北方向と西側を流れる水路に向かい低くなっていた。

２～４トレンチでは第５層と地山の間に暗オリーブ色粘質土7.5Y4/3、また、４トレンチではその下にオリーブ黒色砂混土7.5Y3/2が存在した。

遺物は出土せず、遺構も検出されなかったが、今回検出した砂質土層等の堆積は流路の埋土である可能性が考えられる。

第３節　波有手遺跡

波有手遺跡は、現在の海岸線より約500m内陸部に位置する。平成５(1993)年に公共工事に先立つ試掘調査で発見された遺跡で、その調査では奈良時代の墨書土器が36点出土し、うち31点に「海」という文字が書かれていた。また、同時代の製塩土器も多量に出土しており、製塩に関する施設の存在が想定される。



第16図　波有手遺跡　調査区位置図

（１）14－1区（第16～18図）

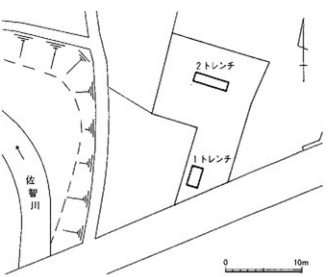
調査区は波有手遺跡の南西部で、佐智川右岸約20mに位置する。調査区に2.7m×1.5mの1トレンチ、4.6m×1.3mの2トレンチを設定し調査を行った。

１トレンチの基本層序は第１層盛土、第２層耕作土、第３層床土、第４層にぶい黄褐色礫混土10YR5/4、第５層灰オリーブ色礫混土7.5Y4/2で、第４層以下は地山である。地山は地表面から約－0.20mで検出したが、一部を残して0.60m程掘削されており、近世期に耕作を行った跡が見られた。

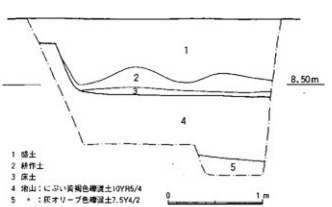
遺物は耕作土から土師質土器、陶器が出土した。

遺構は検出されなかった。

２トレンチは工事の及ぶ地表面から約－0.80mまで掘削したが盛土が続いており、包含層は検出せず、地山の検出にも至らなかった。



第17図　波有手遺跡 14-1区　トレンチ位置図



第18図　波有手遺跡 14-1区　１トレンチ東側断面図

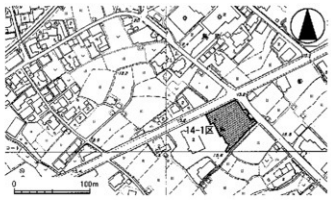
第４節　鳥取南遺跡

鳥取南遺跡は、昭和63(1988)年度に阪南町教育委員会(当時)が実施した埋蔵文化財分布調査によって発見された遺跡である。既往の調査では、弥生時代後期から中期にかけての遺構、遺物が検出されている。

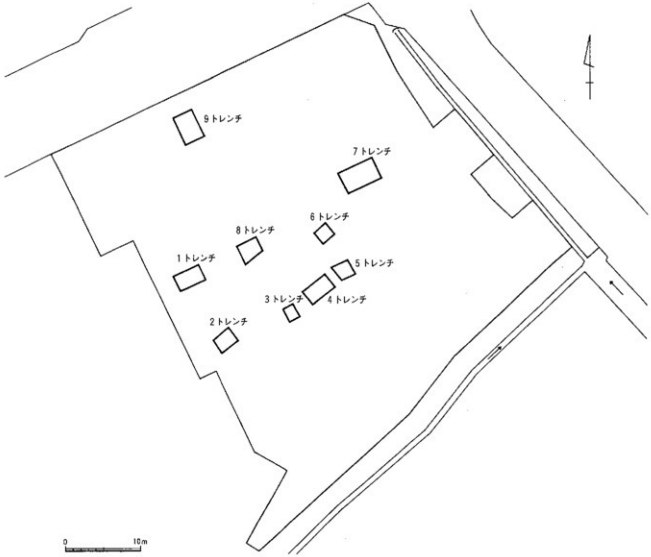
（１）14－1区（第19～21図）

調査区は鳥取南遺跡の東端部に位置する。調査は調査区内にトレンチ９ヶ所、全体で67.93㎡の調査を行った。

基本層序は第１層盛土、第２層耕作土、第３層灰黄褐色砂混粘質土10YR6/2、第４層はマンガン混じりの明黄褐色粘質土10YR6/6の地山である。地山は地表面か



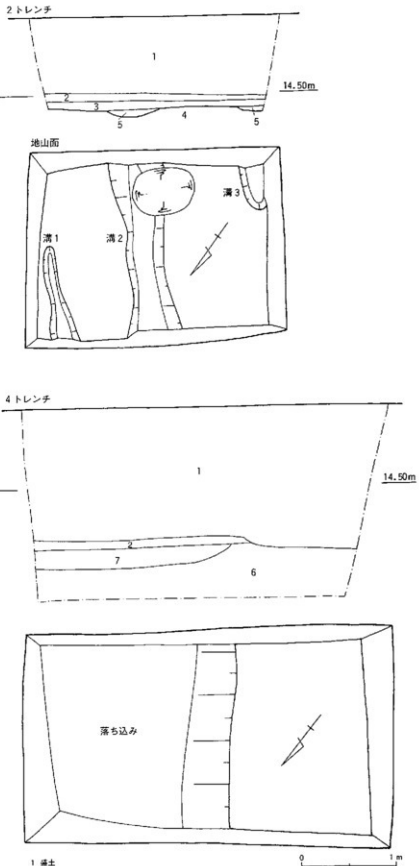
第19図　鳥取南遺跡　調査区位置図



第20図　鳥取南遺跡 14-1区　トレンチ位置図

ら約－1.00ｍで検出した。

遺物は第３層から須恵器、瓦器が出土した。中世期の包含層と考えられる。遺構は調査区西部の２トレンチの地山面で南北方向の溝を３条検出した。溝１は長さ1.00ｍ以上、幅0.30ｍ、深さ0.04ｍで、遺物は須恵器、瓦器、土師質土器が出土した。溝２は長さ1.80ｍ以上、幅0.60ｍ、深さ0.10ｍで、遺物は瓦器、土師質土器が出土した。溝３は長さ0.50ｍ以上、幅0.30ｍ以上、深さ0.05ｍで、遺物は出土しなかった。埋土はいずれもマンガン混じりの明黄褐色砂混粘質土10YR6/6で、中世期の鋤溝と思われる。また、調査区中央に設定した４トレンチの黄褐色礫混土2.5Y5/6上面で、東方向の落ち込みを検出した。埋土は風化礫混じりのオリーブ黄色砂混粘質土5Y6/4で、４トレンチより東側の５・６トレンチの埋土も同じであることから、調査区の東部は落ち込みと思われ、工事で影響を受ける地表面から約－2.0ｍまで掘削したが、地山は検出できなかった。７～９トレンチは撹乱により、包含層等は検出できなかった。



第21図　鳥取南遺跡 14-1区　トレンチ平面・断面図

第５節　西鳥取遺跡

西鳥取遺跡は、市域の東西に広がる平野部のほぼ中央部に位置する。昭和63(1988)年度に阪南町教育委員会(当時)が行った埋蔵文化財分布調査によって発見された。その後、30数件の調査が行われており、中世期の流路と考えられる遺構やその時代の遺物が検出されているが、調査はすべて小規模なもので、遺跡の詳細は現在のところ不明である。

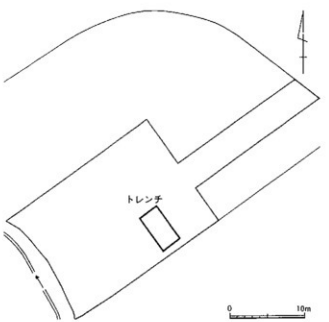
第22図　西鳥取遺跡　調査区位置図

（１）14－1区（第22～25図）

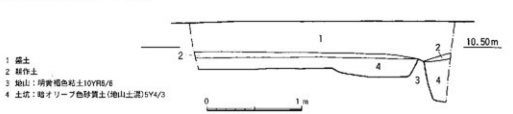
調査区は西鳥取遺跡の東部に位置する。調査は5.4ｍ×2.8ｍのトレンチを設定して実施した。

基本層序は、第１層盛土、第２層耕作土、第３層は明黄褐色粘土10YR6/6の地山である。地山は地表面から約－0.40ｍで検出した。

遺構は地山面で数基の土坑を検出した。最も深いところで0.45ｍを測る。近隣の既往調査95－2区で粘土の採掘遺構が検出されていることから、この遺構も近世期の粘土の採掘土坑であろうと考えられる。

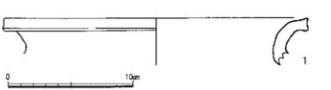


第23図　西鳥取遺跡 14-1区　トレンチ位置図



第24図　西鳥取遺跡 14-1区　トレンチ南側断面図

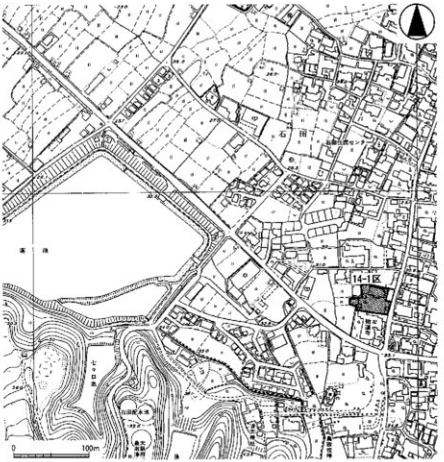
埋土は地山土混じりの暗オリーブ色砂質土5Y4/3である。遺物は須恵器、瓦器、土師質土器、土師質真蛸壺、製塩土器、磁器、近世瓦が出土した。１は須恵器甕の口縁部である。



第25図　西鳥取遺跡 14-1区　出土遺物

第６節　神光寺(蓮池)遺跡

神光寺(蓮池)遺跡は市内で古くから知られており、縄文時代草創期から近世期にかけての複合遺跡である。遺跡の範囲は東西約700m、南北約800mに亘り、中央部には市内最大の灌漑用溜池である蓮池が存在し、池底から採取されたサヌカイト製有茎尖頭器は、現在のところ市内で最古の遺物である。また既往の調査において、弥生時代中期の方形周溝墓が検出されている他、当遺跡の南部に位置する波太神社の神宮寺であった神光寺の瓦が出土していることも特筆される。

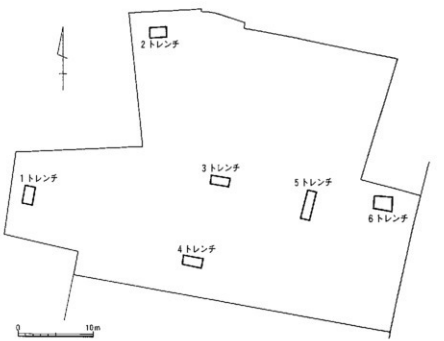


第26図　神光寺(蓮池)遺跡　調査区位置図

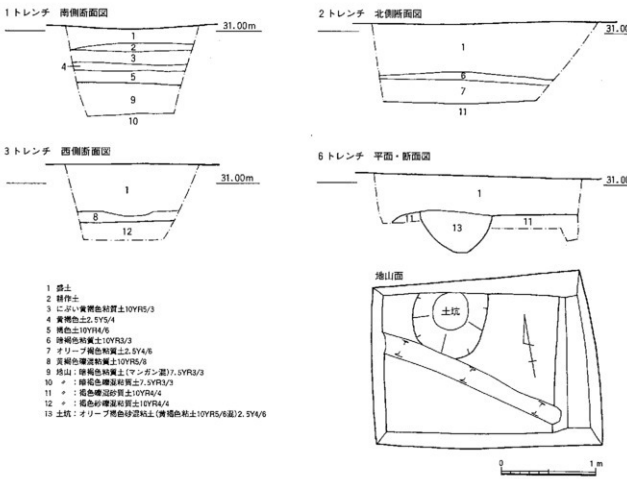
（１）14－1区（第26～29図）

調査区は神光寺(蓮池)遺跡の南東部に位置する。調査区内に６ヶ所のトレンチを設定し、計22.22㎡の調査を行った。

調査区西端の１トレンチの層序は第１層盛土、第２層耕作土、第３層にぶい黄褐色粘質土10YR5/3、第４層黄褐色土2.5Y5/4、第５層褐色土10YR4/6、第６層マンガン混じりの暗褐色粘質土7.5YR3/3、第７層暗褐色礫混粘質土7.5YR3/3



第27図　神光寺(蓮池)遺跡 14-1区　トレンチ位置図



第28図　神光寺(蓮池)遺跡 14-1区　トレンチ平面・断面図

で、第６・７層は地山である。地山は地表面から約－0.60ｍで検出した。

遺物は、第４層から瓦器、土師質土器、瓦質土器、第５層から須恵器、瓦器、土師質土器、瓦質土器、白磁、製塩土器が出土した。第４・５層は中世期の包含層と考えられる。

また、調査区北端に設定した２トレンチの層序は第１層盛土、第２層暗褐色粘質土10YR3/3、第３層オリーブ褐色粘質土2.5Y4/6、第４層は褐色礫混砂質土10YR4/4の地山で、地山は地表面から約－0.80ｍで検出した。

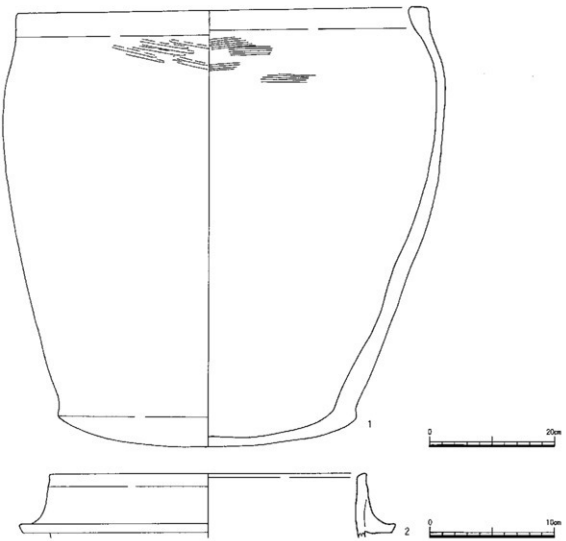
遺物は出土しなかったため、時代は不明である。

中央部の３トレンチの層序は第１層盛土、第２層黄褐色礫混粘質土10YR5/8、第３層褐色砂礫混粘質土10YR4/4で、第３層は地山である。地山は地表面から約－0.70ｍで検出した。遺物は出土しなかった。

調査区南東部の４～６トレンチの層序は第１層盛土、第２層地山である。４トレンチの地山は褐色砂礫混粘質土10YR4/4で、５・６トレンチの地山は褐色礫混砂質土10YR4/4である。地山は地表面から４トレンチでは約－0.80ｍ、５トレンチでは約－0.70ｍ、６トレンチでは約－0.40ｍで検出した。

遺構は６トレンチで、土坑を１基検出した。

土坑は直径0.80ｍ以上、深さ0.40ｍ以上、埋土は黄褐色粘土10YR5/6混じりのオ



第29図　神光寺(蓮池)遺跡 14-1区　出土遺物

リーブ褐色砂混粘土2.5Y4/6で、土坑内には土師質湊焼の甕が据えられていたが、上部は削平されており、内部に甕の口縁部が落ち込んでいた。甕内の埋土はオリーブ褐色土2.5Y4/4で、甕の破片の他、土師質土器、中世瓦が出土した。近世期の土坑である。

1は土坑内に据えられていた甕で、口縁部はやや内傾する逆台形の帯状を呈し、ヨコナデ調整。体部外面はタタキ調整で、内面はハケメ調整。底部は型造りの丸底である。16世紀後半のものと思われる。2は土師質羽釜で甕の内部から出土した。

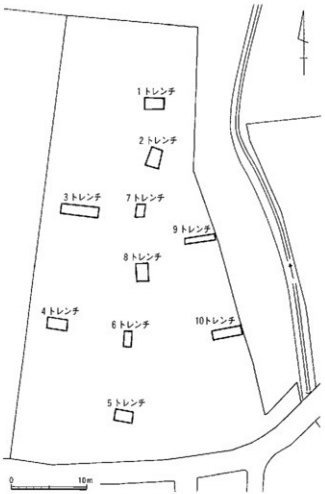
第７節　向出遺跡

向出遺跡は、阪南市の東端部を流れる男里川の支流である山中川と菟砥川に挟まれた河岸段丘とその氾濫原に位置する。昭和62(1987)年度に阪南町教育委員会(当時)が行った埋蔵文化財分布調査によって発見された。遺跡は東西約300ｍ、南北約500ｍと阪南市内では比較的大きい。遺跡の北部は調査件数が少ないため詳細は不明であるが、中央部で行った00－2区と06－1区の調査では、古墳時代中期の竪穴住居が各１棟確認された。南部では、平成９(1997)年に(財)大阪府文化財調査研究センター(当時)が行った国道26号線(第２阪和国道)延長工事に先立つ事前調査で、縄文時代後期から晩期の西日本最大級の土坑墓群が検出されている。また、遺跡の南部からは中世瓦が出土しているものの、寺院等に関連する遺構は、現在のところ確認されていない。

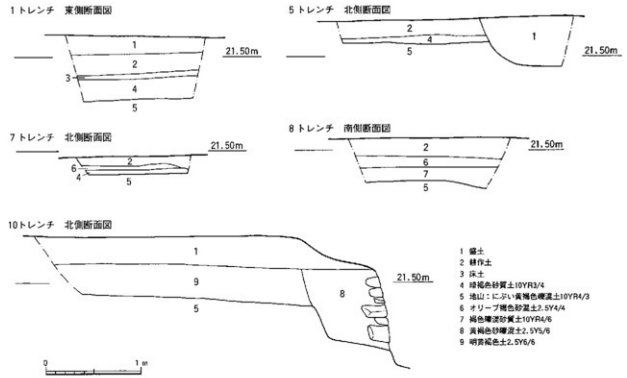
（１）14－1区（第30～32図）

調査区は向出遺跡の中央部で、山中川と菟砥川に挟まれた段丘の東端に位置する。調査区の段丘上端と東側隣接地は、現況で約1.50ｍの高低差がある。調査区

第30図　向出遺跡　調査区位置図



第31図　向出遺跡 14-1区　トレンチ位置図



第32図　向出遺跡 14-1区　トレンチ断面図

内に10ヶ所のトレンチを設定し、計39.84㎡の調査を行った。

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層床土、第4層暗褐色砂質土10YR3/4、第5層はにぶい黄褐色礫混土10YR4/3の地山であるが、9・10トレンチでは第2層、3～10トレンチでは第3層、8～10トレンチでは第4層が存在しなかった。地山は北部の1トレンチでT.P.＋21.00m、南部の5トレンチではT.P.＋21.65mで検出し、北へ向かって下がっていく地形であることが確認された。

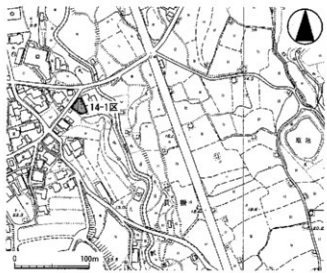
調査区南東部は堆積が異なり、7・8トレンチでは第2層、9トレンチでは第1層の下にオリーブ褐色砂混土2.5Y4/4が存在する。8トレンチでは地山の上に褐色礫混砂質土10YR4/6が存在するが、近世期の磁器の他にガラス片も出土しており、段丘の端が崩落したところを近代期以降に整地し、再び耕地化したと考えられる。

10トレンチの東端で段差に沿った石組を確認した。石組の裏込めと思われる黄褐色砂礫混土2.5Y5/6及び明黄褐色土2.5Y6/6から遺物の出土はなかったが、近代期以降の石組と思われる。

遺物は第4層から須恵器、黒色土器、土師質土器が出土した。北側に隣接する既往調査で、第4層と同じ暗褐色砂質土10YR3/4が検出され、中世期の遺物が出土しているため、この層も中世期と考えられる。遺構は検出されなかった。

第８節　貝掛遺跡

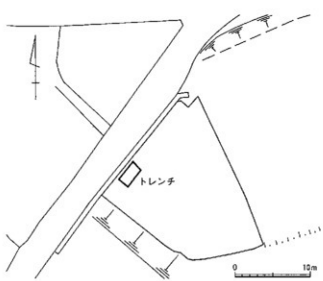
貝掛遺跡は本市の中央部を流れる釈迦坊川と花折川に挟まれた、南北に長い谷に位置する。昭和61(1986)年度に阪南町教育委員会(当時)が行った86－1区の調査においては、中世期の溝が数条検出された他、縄文時代のサヌカイト製石槍や石鏃、土師器、須恵器、瓦器、近世陶磁器等、様々な時代の遺物が確認されている。同じく、昭和61(1986)年度に(財)大阪府埋蔵文化財協会(当時)が実施した調査では、近世期の建物跡が確認され、文献や絵図等に記載されている同時代の集落「舞村」の存在が裏付けられた。また、平成元(1989)年度に阪南町教育委員会(当時)が行った89－3区の調査では、７世紀前半の建物跡を検出した他、土坑から金銅製耳環や奈良三彩の八曲長杯等、特異な遺物が出土している。



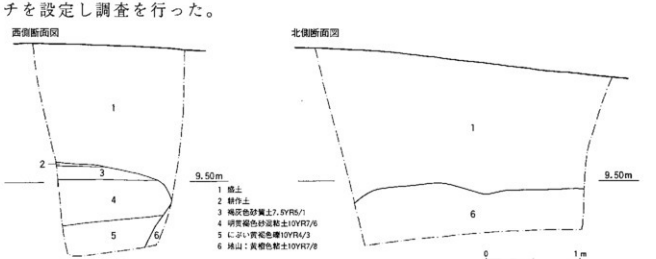
第33図　貝掛遺跡　調査区位置図

（１）14－1区（第33～35図）

調査区は貝掛遺跡の北西部にあたり、約50ｍ東を流れる釈迦坊川の河岸段丘に位置する。調査区に3.0ｍ×1.6ｍのトレンチを設定し調査を行った。



第34図　貝掛遺跡 14-1区　トレンチ位置図



第35図　貝掛遺跡 14-1区　トレンチ断面図

基本層序は、第１層盛土、第２層耕作土、第３層褐灰色砂質土7.5YR5/1、第４層明黄褐色砂混粘土10YR7/6、第５層にぶい黄褐色礫10YR4/3、第６層は黄橙色粘土10YR7/8の地山である。地山はトレンチ北部では、地表面より約－1.40ｍで検出した。南部は工事によって影響の及ぶ地表面より約－2.00ｍまで掘削したが、地山の検出には至らなかった。調査区は落差の大きい傾斜地で、釈迦坊川に向かって急激に落ち込んでいたものを第３～５層で整地し、耕地化したと思われる。釈迦坊川との高低差は現況で約3.50ｍである。

遺物は第３層から土師質土器、陶器、第４層から土師質土器、陶器、近代瓦が出土した。

遺構は検出されなかった。

第９節　箱作今池遺跡

箱作今池遺跡は阪南市の北西部に位置し、茶屋川とその支流である飯ノ峯川が形成する扇状地に位置する。平成５(1993)年に(財)大阪府文化財調査研究センター(当時)が区画整理事業に伴い行った遺跡南部での調査により奈良時代に掘立柱建物群が築造され、室町時代には大規模な土地改変で耕地化されたことが分かっている。北部は海岸線に近いことから中世期の蛸壺をはじめとする漁具が出土しており、漁労集落の存在が想定されるものの、旧市街のために調査例は少なく、現在のところ遺跡の詳細は不明である。

第36図　箱作今池遺跡　調査区位置図

（１）13－2区（第36～38図）

調査区は箱作今池遺跡の北部に位置する。調査区内に2.2ｍ×1.1ｍのトレンチを設定し調査を実施した。

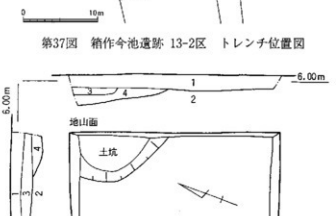
基本層序は、第１層盛土、第2層黄橙色風化礫混粘土10YR7/8で、第２層は地山である。地山は地表面から約－0.20ｍで検出した。

遺構は地山面で土坑1基と、溝１条を検出した。

第37図　箱作今池遺跡 13-2区　トレンチ位置図

土坑は東西0.50ｍ以上、南北0.95ｍ以上、深さ0.20ｍで、トレンチ外へ延び、溝に切られている。埋土は地山土混じりの褐色粘質土10YR4/6で、遺物は土師質真蛸壺、スサ入り焼土塊が出土した。中世期の土坑である。

溝は長さ1.15ｍ以上、幅0.50ｍ以上、深さ0.12ｍで、東西方向に延び、土坑を切っている。埋土はにぶい黄褐色砂質土10YR5/3で、遺物の出土がないため時代



第38図　箱作今池遺跡 13-2区　トレンチ平面・断面図

は不明であるが、中世期もしくはそれ以降である。

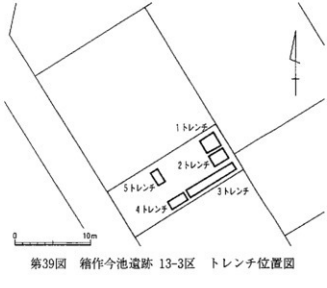
（２）13－3区（第36・39～41図）

調査区は箱作今池遺跡の中央部に位置する。調査区内に５ヶ所のトレンチを設定し、計23.38㎡の調査を行った。

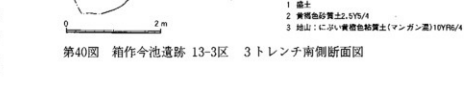
基本層序は、第１層盛土、第２層黄褐色砂質土2.5Y5/4、第３層はマンガン混じりのにぶい黄橙色粘質土10YR6/4の地山である。調査区は既設の擁壁で攪乱を受けており、１～３トレンチでは包含層をわずかに検出したが、４・５トレンチは盛土直下が地山である。地山は地表面から約－0.40ｍで検出し、西から東へなだらかに傾斜していた。

遺物は第２層から瓦器、土師質土器、土師質真蛸壺が出土した。中世期の包含層と思われる。１～３は土師質小皿である。

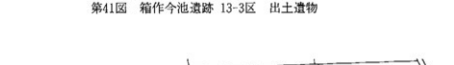
遺構は検出されなかった。



第39図　箱作今池遺跡 13-3区　トレンチ位置図



第40図　箱作今池遺跡 13-3区　３トレンチ南側断面図



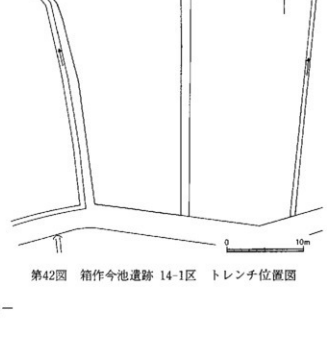
第41図　箱作今池遺跡 13-3区　出土遺物

（３）14－1区（第36・42～44図）

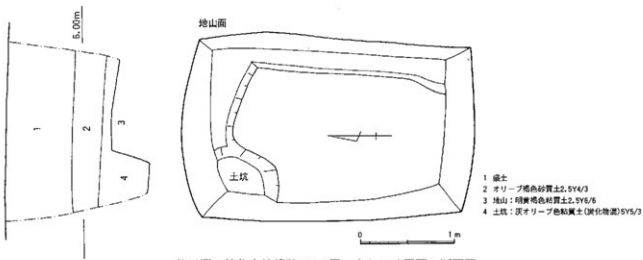
調査区は箱作今池遺跡の北部に位置する。調査は2.9ｍ×1.9ｍのトレンチを設定し実施した。

基本層序は、第１層盛土、第２層オリーブ褐色砂質土2.5Y4/3、第３層明黄褐色粘質土2.5Y6/6である。第３層は地山で、地表面から約－1.00ｍで検出した。

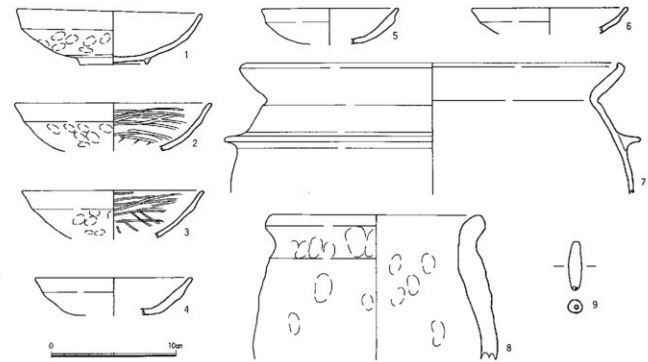
遺物は第２層から瓦器、土師質土器、瓦質土器、土師質真蛸壺、スサ入り焼土塊が出土した。中世期の包含層と考えられる。



第42図　箱作今池遺跡 14-1区　トレンチ位置図



第43図　箱作今池遺跡 14-1区　トレンチ平面・断面図



第44図　箱作今池遺跡 14-1区　出土遺物

遺構は地山面で土坑を１基検出した。東西1.60ｍ以上、南北0.70ｍ以上の不定形土坑で、深さはトレンチ東端から中央にかけては0.10ｍ程度であったが、北西端で一気に0.55ｍの深さになっていた。埋土は炭化物混じりの灰オリーブ色粘質土5Y5/3で、遺物は瓦器、土師質土器、土師質真蛸壺、土師質管状土錘、スサ入り焼土塊が出土した。出土した土師質真蛸壺はすべて破片であるが、使用による磨滅は見られず、自然釉の付着したものがある。また、１つの土坑からとしては量も多く、焼土も出土していることから、中世期の蛸壺焼成関連遺構と考えられる。１～３は瓦器椀、４～９は土師質土器で、４～６はいわゆる白土器の皿、７は12世紀中頃の大和型羽釜、８は真蛸壺、９は管状土錘である。

第10節　下出範囲外

（1）13－1区（第45～48図）

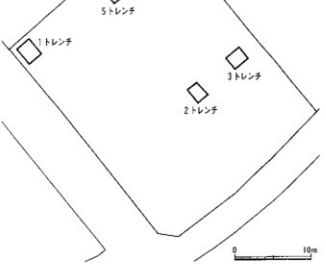
調査区は馬川遺跡の西に隣接し、内畑遺跡の北約50mに位置する。当調査区は遺跡の範囲外であるが、両遺跡の近隣であることと、馬川遺跡の範囲を確認するために試掘調査を行った。調査区内に5ヶ所のトレンチを設定し、計24.50㎡の調査を実施した。

基本層序は第1層盛土、第2層褐色粘質土7.5YR4/6、第3層褐色礫混粘質土10YR4/4で、第3層は地山である。4・5トレンチでは盛土直下は地山であった。地山は1トレンチではT.P.＋8.00m、2～5トレンチではT.P.＋8.30mで検出した。第2層から遺物は出土しなかったが、後述する中世期の溝に切られていることから中世期もしくはそれ以前と思われる。

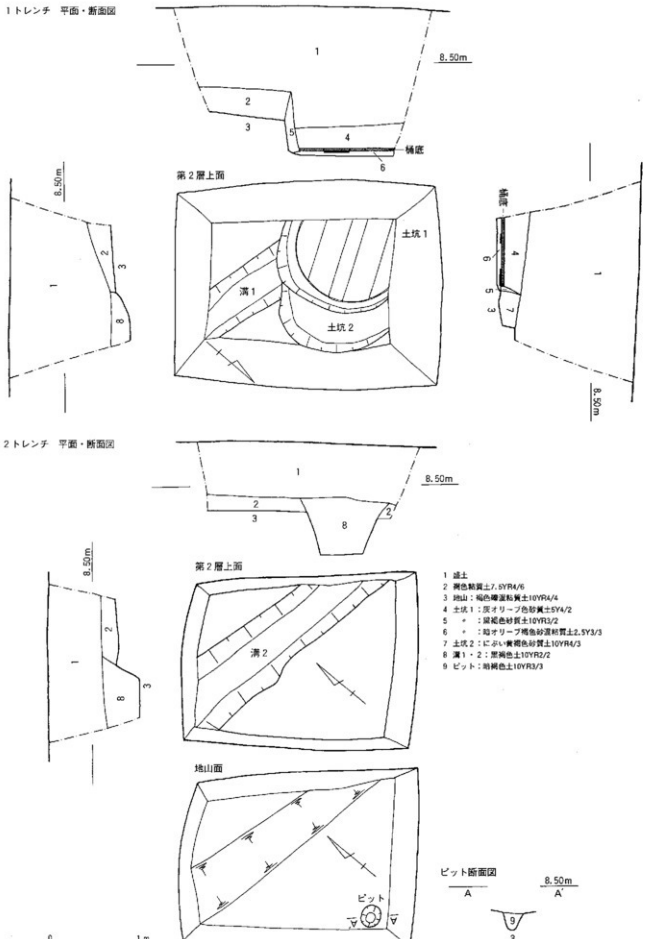
遺構は1トレンチの第2層上面で土坑2基、溝1条、2トレンチの第2層上面で溝1条、地山面でピット1基を検出した。

土坑1は東西1.00m以上、南北1.20m以上、深さ0.66mを測る円形の土坑で、土坑2と溝1を切っている。底部で桶の底板と思われる幅14.5～25.5cm、厚さ3.0cmの5枚の杉板を検出した。杉板は竹釘によって継ぎ合わされ、端部は「く」字状に面取りされている。裏面には5枚の杉板に対して直角に幅10.0cmと幅17.0cmでともに厚さ約1.0cmの板が2枚添うように敷かれていた。側板は存在しなかったが、土坑の側面と底部で箍と思われる竹材も確認できた。埋土は上層から灰オリーブ色砂質土5Y4/2、黒褐色砂質土10YR3/2、暗オリーブ褐色砂混粘質土2.5Y3/3で、遺物は灰オリーブ色砂質土5Y4/2から陶器、磁器、近世瓦が出土した。当地

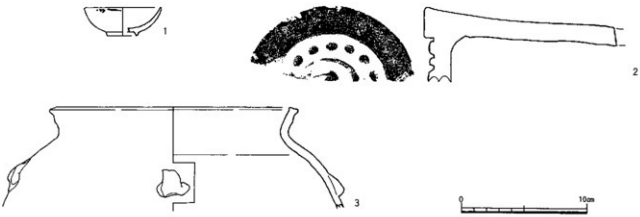
第45図　下出範囲外　調査区位置図



第46図　下出範囲外 13-1区　トレンチ位置図



第47図　下出範囲外 13-1区　トレンチ平面・断面図



第48図　下出範囲外 13-1区　出土遺物

より東約70ｍで、近世墓地が検出されているため、座棺の可能性も考えられる。１は染付磁器の杯、２は巴文軒丸瓦で、瓦当面にキラ粉が認められ、胴部に釘穴を有す。

土坑２は東西0.70ｍ以上、南北1.15ｍ以上、深さ0.24ｍを測るほぼ円形の土坑で、土坑１に切られ、溝１を切っている。埋土はにぶい黄褐色砂質土10YR4/3で、遺物は出土しなかった。

溝１は長さ1.20ｍ以上、幅0.50ｍ、深さ0.20ｍを測る東西方向の溝で、土坑１・２に切られている。埋土は黒褐色土10YR2/2で、遺物は出土しなかった。

溝２は長さ2.60ｍ以上、幅0.74ｍ、深さ0.37～0.60ｍを測る東西方向の溝である。埋土は溝１と同じ黒褐色土10YR2/2のため、同一の溝の可能性が高い。遺物は瓦器、土師質土器が出土した。中世期の溝である。３は土師質土器で口縁部から体部外面にかけてヨコナデ調整、体部内面はヘラケズリで、肩部に２ヶ所以上、耳状の粘土を貼りつけている。外面に煤が付着していることから煮炊具であると思われる。

ピットは直径0.23ｍ、深さ0.18ｍを測り、埋土は暗褐色土10YR3/3で、遺物は出土しなかったが層序関係から中世期もしくはそれ以前である。

今回の調査により、馬川遺跡は西に拡張することが確認された。

第11節　新町範囲外

（１）14－1区（第49～51図）

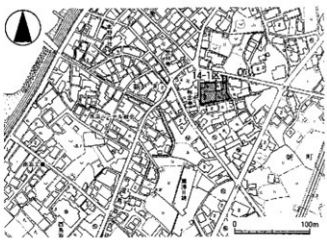
調査区は鳥取北遺跡の北約600ｍに位置し、西約200ｍで大阪湾の海岸線に至る。

当地は埋蔵文化財包蔵地ではないが、周辺での調査例がないため、試掘調査を実施した。

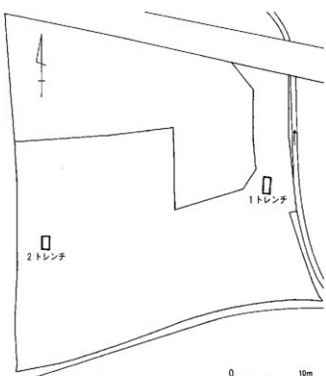
調査区内の東部に2.3ｍ×1.0ｍの１トレンチ、西部に1.8ｍ×1.0ｍの２トレンチを設定し、計4.10㎡の調査を行った。

基本層序は第１層盛土、第２層耕作土、第３層床土、第４層黄褐色粘質土2.5Y5/3、第５層にぶい黄色粘質土2.5Y6/3、第６層は黄橙色風化礫混粘土10YR7/6の地山である。２トレンチでは第６層に風化礫が見られなかった。地山は１トレンチでは地表面から約－1.05ｍ、２トレンチでは約－0.90ｍの深さで検出した。

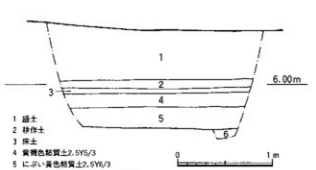
遺物は出土せず、遺構も検出されなかった。



第49図　新町範囲外　調査区位置図



第50図　新町範囲外 14-1区　トレンチ位置図



第51図　新町範囲外 14-1区　１トレンチ東側断面図

第12節　石田範囲外

（1）14－1区（第52～56図）

調査区は黒田南遺跡の東約200m、神光寺(蓮池)遺跡の北約200mに位置する南北に長い調査区で、埋蔵文化財包蔵地ではないが範囲が比較的広いため試掘調査を行う事となった。

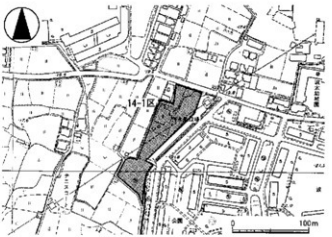
調査は調査区の南部に1～6トレンチを、北部に7～18トレンチを設定し、計89.74㎡の調査を行った。

1～6トレンチの基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層床土、第4層にぶい黄褐色砂混粘質土10YR5/3、第5層褐色土10YR4/4、第6層オリーブ褐色礫混土2.5Y4/4で、第6層は地山である。地山は地表面から約－0.50～1.30mで検出した。

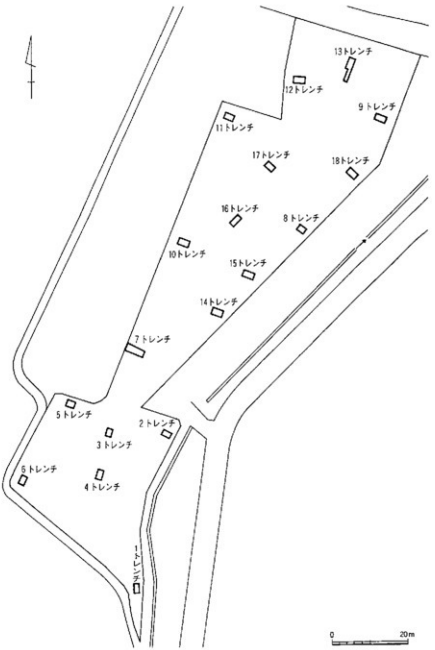
遺物は、第4層から須恵器、黒色土器、土師質土器、波佐見青磁、第5層から須恵器、黒色土器、土師質土器、土師質真蛸壺、中世瓦が出土した。第4層は近世期、第5層は中世期と思われる。

遺構は5トレンチの第5層上面で北方向への落ち込みと6トレンチの地山面で土坑1を検出した。

落ち込みは上層が黄褐色粘質土2.5Y5/6、下層がにぶい黄褐色砂質土混礫10YR5/3である。遺物は上層

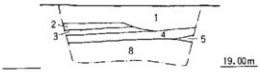


第52図　石田範囲外　調査区位置図



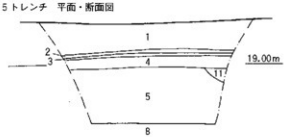
第53図　石田範囲外 14-1区　トレンチ位置図

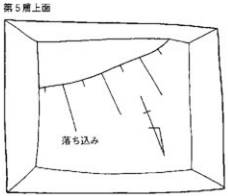
1トレンチ　南側断面図

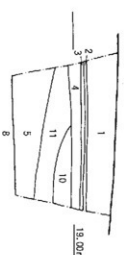


2トレンチ　北側断面図

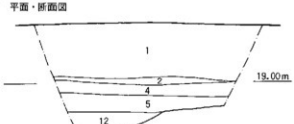
5トレンチ　平面・断面図

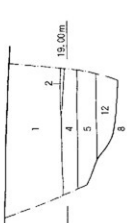


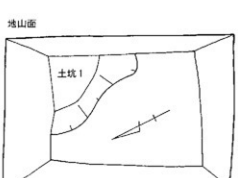




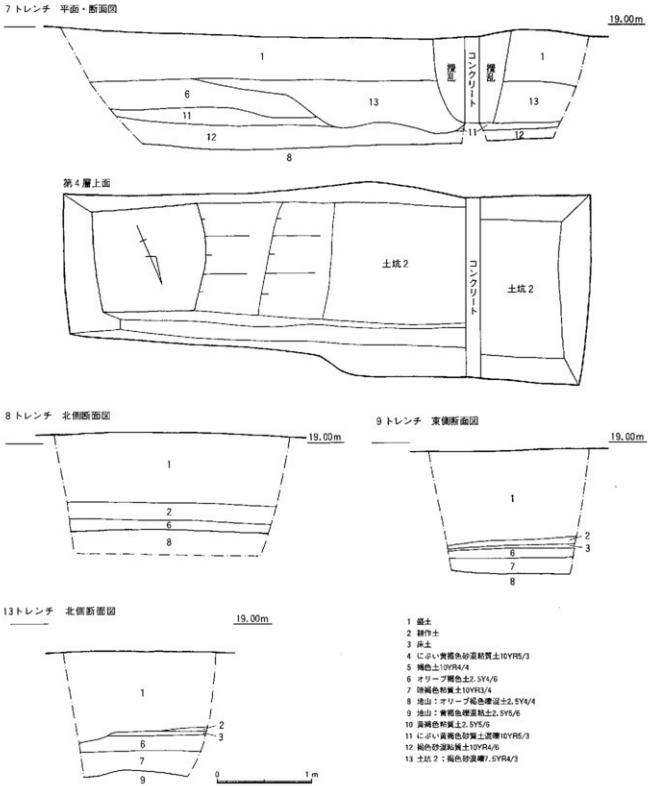
6トレンチ　平面・断面図







第54図　石田範囲外 14-1区　トレンチ平面・断面図



第55図　石田範囲外 14-1区　トレンチ平面・断面図

から須恵器が出土した。

土坑1は東西0.85m以上、南北0.95m以上、深さ0.22mで、トレンチ外に広がる。埋土は褐色砂混粘質土10YR4/6で、遺物は出土しなかった。

第56図　石田範囲外
14-1区　出土遺物

7～18トレンチの基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層床土、第4層オリーブ褐色土2.5Y4/6、第5層暗褐色粘質土10YR3/4、第6層は地山で、7～9トレンチは1～6トレンチと同じオリーブ褐色礫混土2.5Y4/4、10～13トレンチは、黄褐色礫混粘土2.5Y5/6であった。地山は地表面から約－1.00～1.50mで検出した。7・8・10トレンチでは第5層が存在せず、14～18トレンチは既設建物の基礎で撹乱を受けており、包含層等は検出されなかった。

遺物は第4層から須恵器、土師質土器、瓦質土器、土師質真蛸壺、第5層から土師質土器、土師質真蛸壺が出土した。いずれも中世期の遺物である。1は土師質小皿で、第5層から出土した。

遺構は7トレンチの第4層上面で土坑2を検出した。東西4.00m以上、南北1.60m以上、深さ0.55mで、トレンチ外に広がる。埋土は褐色砂混礫7.5YR4/3で、遺物は出土しなかった。

また、7トレンチのにぶい黄褐色砂質土混礫10YR5/3は南部の5トレンチで検出した落ち込みの下層と同じであることから、同一の落ち込みの続きと思われる。同様に地山直上の褐色砂混粘質土10YR4/6は、6トレンチで検出した土坑1の埋土と同じであることから、遺構の可能性も考えられる。いずれの層からも遺物は出土しなかった。

報告書抄録

ふりがな	はんなんしまいぞうぶんかざいはっくつちょうさがいよう３２
書名	阪南市埋蔵文化財発掘調査概要３２
副書名	
巻次	
シリーズ名	阪南市埋蔵文化財報告
シリーズ番号	５３
編著者名	田中早苗・上野　仁・須崎雄一朗
編集機関	阪南市教育委員会生涯学習部生涯学習推進室
所在地	〒599-0292　大阪府阪南市尾崎町３５－１　TEL 072－471－5678
発行年月日	2015年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村番号	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
馬川	下出	27232	39	34 21 25	135 15 01	20140529 ・0530	5.04	記録保存調査
馬川	下出	27232	39	34 21 21	135 15 07	20140603 ～0718	227.38	記録保存調査
馬川	下出	27232	39	34 21 27	135 14 57	20140612 ・0613	2.80	記録保存調査
下出北	下出	27232	41	34 21 17	135 15 12	20141016 ・1017	17.70	記録保存調査
波有出	鳥取	27232	69	34 20 55	135 14 07	20141027 ・1028	10.03	記録保存調査
鳥取南	鳥取	27232	55	34 20 53	135 14 23	20140630 ・0701	67.93	記録保存調査
西鳥取	鳥取	27232	56	34 20 51	135 14 06	20140724 ・0725	15.12	記録保存調査
神光寺(蓮池)	石田	27232	20	34 20 31	135 14 57	20140501 ～0508	22.22	記録保存調査
向出	自然田	27232	43	34 20 49	135 15 32	20140512 ～0516	39.84	記録保存調査
貝掛	貝掛	27232	19	34 20 26	135 13 33	20140610 ・0611	4.80	記録保存調査
箱作今池	箱作	27232	24	34 20 24	135 12 54	20140120 ・0121	2.42	記録保存調査
箱作今池	箱作	27232	24	34 20 11	135 12 57	20140326 ～0328	23.38	記録保存調査
箱作今池	箱作	27232	24	34 20 23	135 12 51	20140722 ・0723	5.51	記録保存調査
下出範囲外	下出	27232	－	34 21 48	135 14 33	20140114 ～0116	24.50	試掘・確認調査
新町範囲外	新町	27232	－	34 21 17	135 14 18	20141120 ・1121	4.10	試掘・確認調査
石田範囲外	石田	27232	－	34 20 55	135 14 48	20140811 ～0829	89.74	試掘・確認調査

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主　な　遺　物	特記事項
馬　川	散布地	古墳～中世期	土坑	土師器、須恵器、瓦器、土師質土器、製塩土器、焼土塊	
馬　川	散布地	中世期	土坑、流路	弥生土器、土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、土師質土器、製塩土器、土師質真蛸壺、中世瓦	
馬　川	散布地	古墳～近世期		弥生土器、土師器、瓦器、土師質土器、焼締陶器、土師質真蛸壺、土師質管状土錘、中世瓦、敲石	
下　出　北	散布地				
波　有　手	散布地			土師質土器、陶器	
鳥　取　南	散布地	中世期	溝、落ち込み	須恵器、瓦器、土師質土器	
西　鳥　取	散布地	近世期	土坑	須恵器、瓦器、土師質土器、土師質真蛸壺、製塩土器、磁器、近世瓦	
神光寺（蓮池）	寺院跡、散布地、その他の墓	中世期～近世期	土坑	須恵器、瓦器、土師質土器、瓦質土器、白磁、製塩土器	
向　出	散布地	中世期～近世期		須恵器、黒色土器、土師質土器	
貝　掛	集落跡			土師質土器、陶器、近代瓦	
箱作今池	散布地、集落跡、生産遺跡	中世期	土坑、溝	土師質真蛸壺、スサ入り焼土塊	
箱作今池	散布地、集落跡、生産遺跡	中世期		瓦器、土師質土器、瓦質土器、土師質真蛸壺	
箱作今池	散布地、集落跡、生産遺跡	中世期	土坑	瓦器、土師質土器、瓦質土器、土師質真蛸壺、土師質管状土錘、スサ入り焼土塊	
下出範囲外		中世期	土坑、溝、ピット	瓦器、土師質土器、陶器、磁器、近世瓦	
新町範囲外					
石田範囲外		中世期～近世期	土坑、落ち込み	須恵器、黒色土器、土師質土器、瓦質土器、波佐見青磁、土師質真蛸壺、中世瓦	

馬川遺跡14－1区
トレンチ全景（西より）

馬川遺跡14－2区
土坑1（東より）

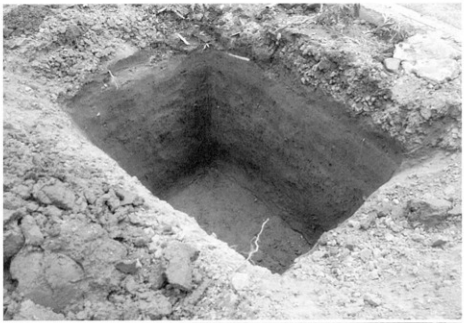
馬川遺跡14－2区
流路1（北より）

図版2

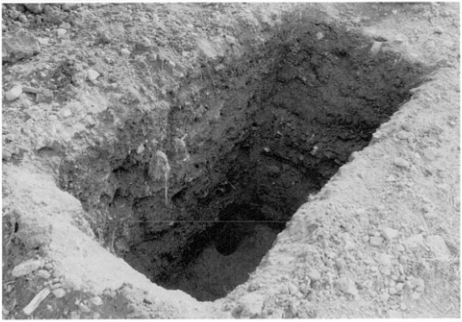
馬川遺跡14－2区
流路1北側断面

馬川遺跡14－2区
流路2北側断面

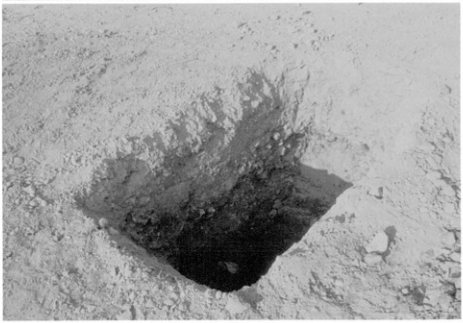
馬川遺跡14－2区
流路2東側断面



馬川遺跡14－３区
トレンチ全景（北より）

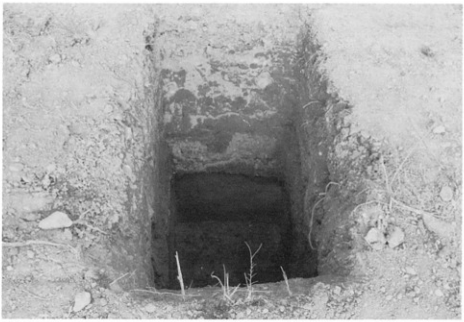


下出北遺跡14－１区
１トレンチ全景（東より）

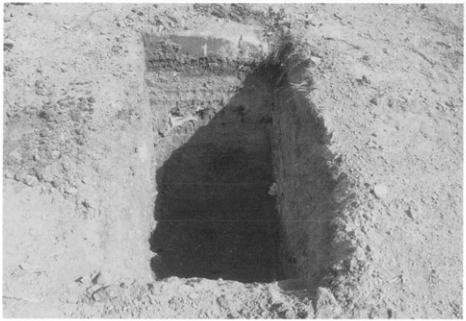


下出北遺跡14－１区
２トレンチ全景（西より）

図版4

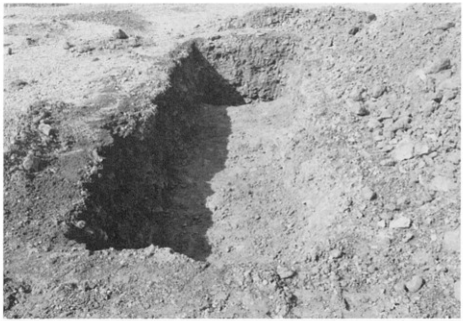


下出北遺跡14－１区
３トレンチ全景（西より）



下出北遺跡14－１区
４トレンチ全景（西より）

波有手遺跡14－１区
１トレンチ全景（北より）



波有手遺跡14－１区
２トレンチ全景（東より）

鳥取南遺跡14－１区
１トレンチ全景（東より）

鳥取南遺跡14－１区
２トレンチ全景（西より）

図版6

鳥取南遺跡14－１区
３トレンチ全景（西より）

鳥取南遺跡14－１区
４トレンチ全景（西より）

鳥取南遺跡14－１区
５トレンチ全景（西より）

鳥取南遺跡14－１区
6トレンチ全景（東より）

鳥取南遺跡14－１区
7トレンチ全景（西より）

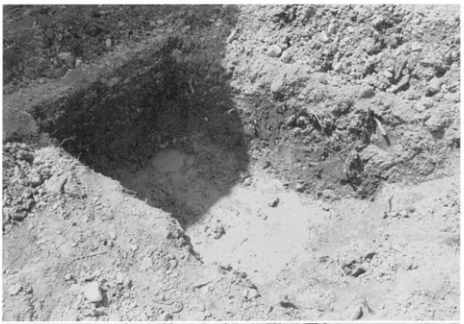
鳥取南遺跡14－１区
8トレンチ全景（西より）

図版8

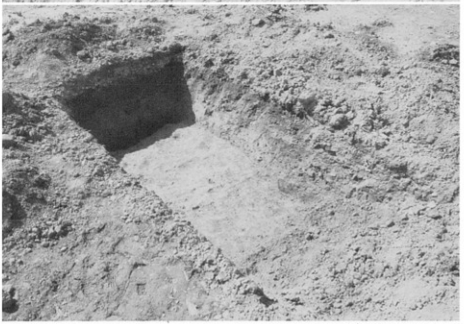
鳥取南遺跡14－１区
９トレンチ全景（北より）

西鳥取遺跡14－１区
トレンチ全景（南より）

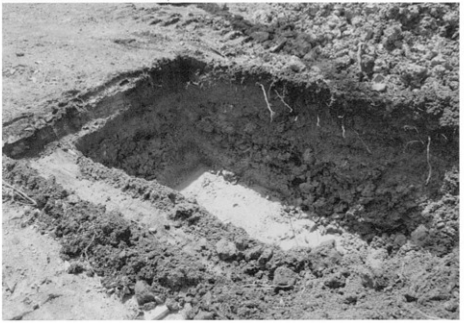
神光寺（蓮池）遺跡14－１区
１トレンチ全景（北より）



神光寺(蓮池)遺跡14－１区
２トレンチ全景(東より)



神光寺(蓮池)遺跡14－１区
３トレンチ全景(東より)

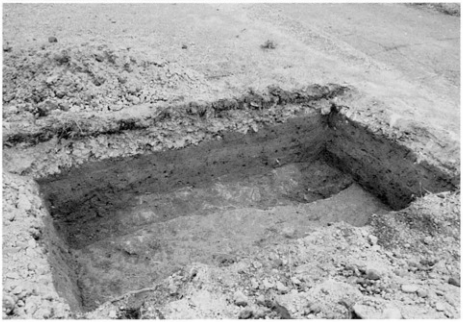


神光寺(蓮池)遺跡14－１区
４トレンチ全景(西より)

図版10

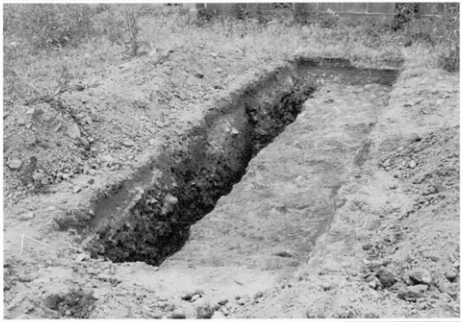
神光寺(蓮池)遺跡14－１区
５トレンチ全景(北より)

神光寺(蓮池)遺跡14－１区
６トレンチ全景(西より)

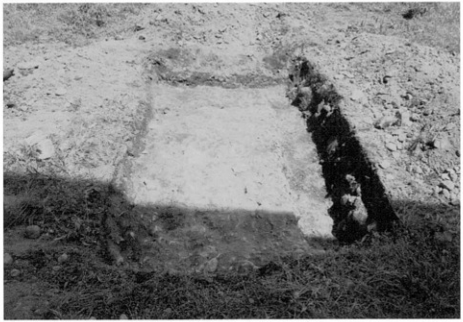


向出遺跡14－１区
１トレンチ全景(南より)

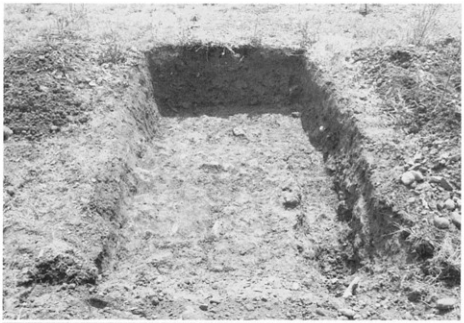
向出遺跡14－１区
２トレンチ全景（南より）



向出遺跡14－１区
３トレンチ全景（東より）



向出遺跡14－１区
４トレンチ全景（西より）



向出遺跡14－１区
５トレンチ全景（西より）

向出遺跡14－１区
６トレンチ全景（北より）

向出遺跡14－１区
７トレンチ全景（南より）

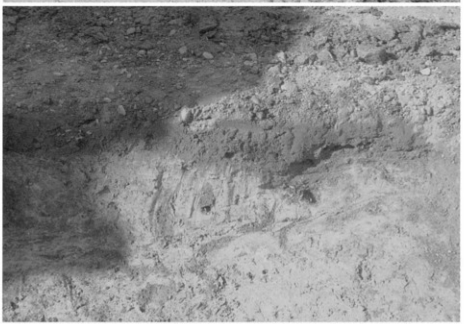
向出遺跡14－１区
8トレンチ全景（北より）

向出遺跡14－１区
9トレンチ全景（西より）

向出遺跡14－１区
10トレンチ全景（西より）

図版14

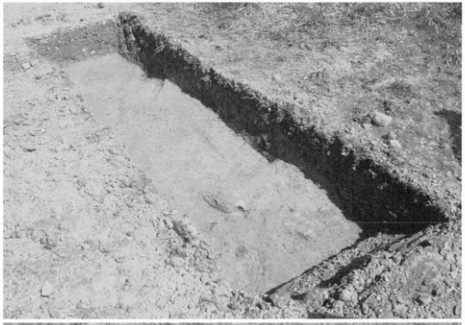
貝掛遺跡14－１区
トレンチ全景（南より）



箱作今池遺跡13－２区
トレンチ西側断面

箱作今池遺跡13－3区
1トレンチ全景（北より）

箱作今池遺跡13－３区
２トレンチ全景（南より）



箱作今池遺跡13－３区
３トレンチ全景（西より）

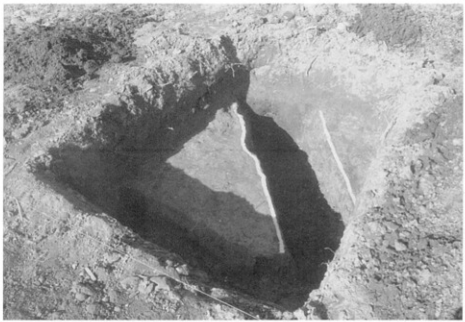
箱作今池遺跡13－３区
４トレンチ全景（東より）

図版16

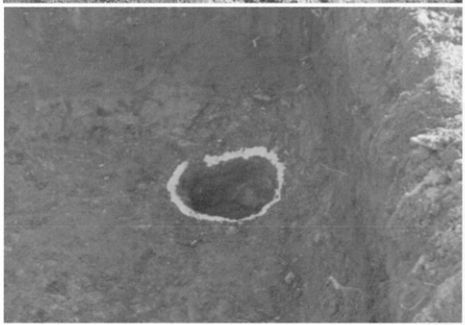
箱作今池遺跡13－３区
５トレンチ全景（南より）

箱作今池遺跡14－１区
トレンチ全景（南より）

下出範囲外13－１区
１トレンチ全景（南より）



下出範囲外13－１区
２トレンチ・溝２（南より）



下出範囲外13－１区
２トレンチ・ピット（北より）

下出範囲外13－１区
３トレンチ全景（北より）

下出範囲外13－１区
４トレンチ全景（南より）

下出範囲外13－１区
５トレンチ全景（南より）

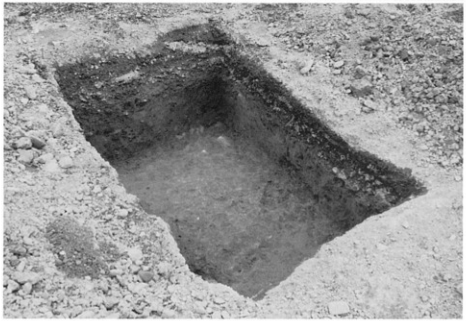
新町範囲外14－１区
１トレンチ全景（南より）

新町範囲外14－１区
２トレンチ全景（北より）

石田範囲外14－１区
１トレンチ全景（北より）

石田範囲外14－１区
２トレンチ全景（西より）

石田範囲外14－１区
３トレンチ全景（北より）



石田範囲外14－１区
４トレンチ全景（北より）

石田範囲外14－１区
５トレンチ東側断面

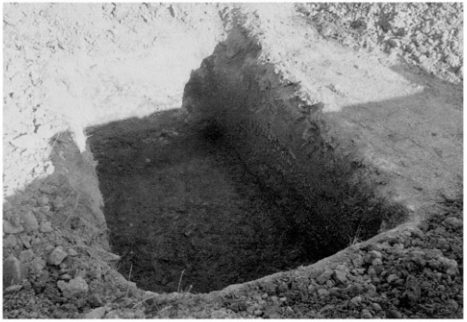
石田範囲外14－１区
６トレンチ南側断面

石田範囲外14－１区
７トレンチ全景（北より）

石田範囲外14－１区
８トレンチ全景（南より）

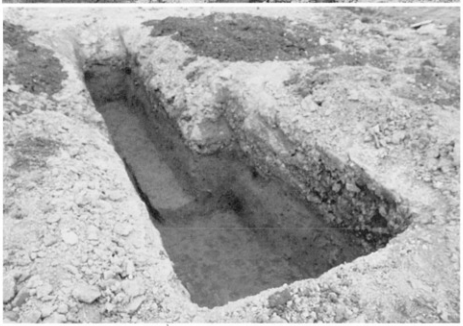
石田範囲外14－１区
９トレンチ全景（西より）

石田範囲外14－１区
10トレンチ全景（東より）



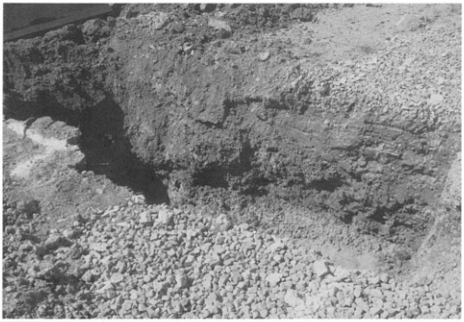
石田範囲外14－１区
11トレンチ全景（西より）

石田範囲外14－１区
12トレンチ全景(東より)



石田範囲外14－１区
13トレンチ全景(北より)

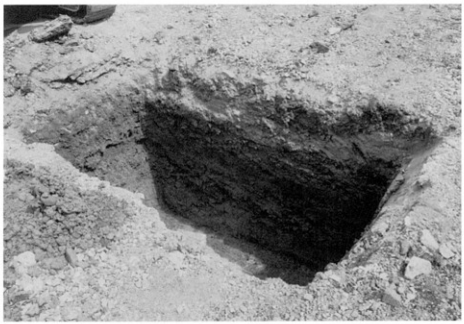
石田範囲外14－１区
14トレンチ全景(北より)



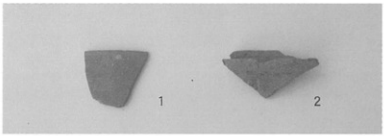
石田範囲外14－１区
15トレンチ全景（南より）

石田範囲外14－１区
16トレンチ全景（南より）

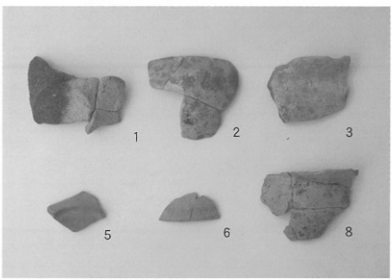
石田範囲外14－１区
17トレンチ全景（東より）



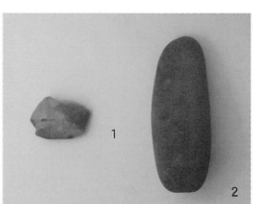
石田範囲外14－１区
18トレンチ全景（南より）



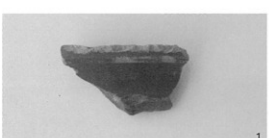
馬川遺跡14－１区　出土遺物



馬川遺跡14－２区　出土遺物



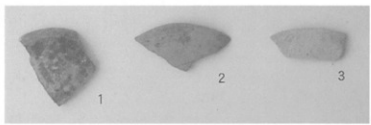
馬川遺跡14－３区　出土遺物



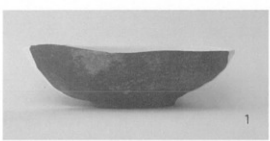
西鳥取遺跡14－１区　出土遺物

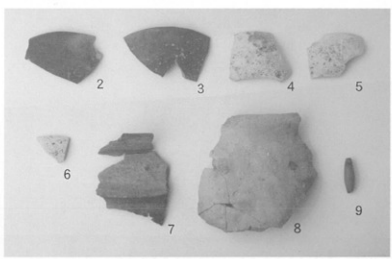
神光寺(蓮池)遺跡14－１区　出土遺物

神光寺(蓮池)遺跡14－１区　出土遺物

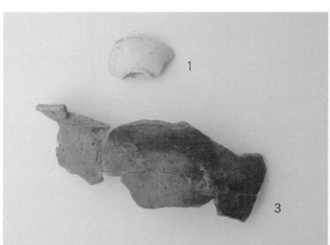


箱作今池遺跡13－３区　出土遺物

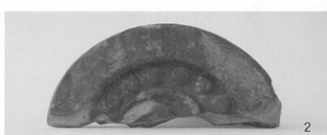




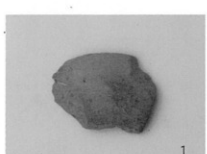
箱作今池遺跡14－１区　出土遺物



下出範囲外13－１区　出土遺物



下出範囲外13－１区　出土遺物



石田範囲外14－１区　出土遺物

阪南市埋蔵文化財報告53

阪南市埋蔵文化財発掘調査概要32

2015年3月

発　行：阪南市教育委員会生涯学習部
生涯学習推進室
大阪府阪南市尾崎町35の1

印刷者：株式会社　帯谷印刷所